

第1回

もったいない全国大会

in うつのみや



報告書 概要版



もったいない全国大会実行委員会
会長 宇都宮市長 佐藤 栄一

宇都宮市で、平成19年8月28日、29日の2日間にわたり「第1回もったいない全国大会」を開催しました。参加者は延べ約2,300人に上り、盛況のうちに終了することができました。この大会の開催により、「もったいない運動」の全国的な推進を図る第一歩を踏み出すことができたものと考えております。これもひとえに、皆様の御支援の賜物と御礼申し上げます。

この大会の報告書（概要版）をここに作成しましたので、「もったいない運動」の更なる推進に御活用いただければ幸いです。

今後とも、皆様の更なる御協力をお願いいたします。



大会1日目は約1,500人が参加

8月 28日 (火)

栃木県総合文化センター（メインホール）

13:00~17:00

アトラクション

宇都宮市立石井小学校こと部による箏曲演奏

開 会

主催者あいさつ

来賓あいさつ



アトラクション

基調講演

パネルディスカッション

大会宣言



大会プログラムなどについて説明するASIMO

宇都宮東武ホテルグランデ（4階 松柏）

18:30~20:00

交 流 会

- ・宇都宮の名物、餃子、カクテル、ジャズを楽しみながら、「もったいない」についての情報交換をしました。
- ・規格外野菜を利用した色とりどりの料理もテーブルに並びました。



約300人で賑わった交流会

8月 29日 (水)

栃木県総合文化センター（サブホール）

9:30~12:00

事例発表会

基調講演

講師：国際連合広報センター所長 幸田シャーミン氏

演題：「地球温暖化と国連の役割」～世界へ広めよう!素敵なMOTTAINAI～

【略歴】

ハーバード大学・ケネディ・スクール・オブ・ガバメントで行政学修士号を取得。80年からNHK「海外ウィークリー」に出演。84年からフジテレビ「スーパータイム」のニュースキャスターに。地球環境問題を専門にジャーナリストとして活動。中央環境審議会委員などを歴任し、06年4月、国際連合広報センター所長に就任。



● 「もったいない」は、グローバルな広がりのあることだとツバルに行って実感



海面上昇の懸念や海岸侵食の問題が起きているツバル

2年前、南太平洋のツバルという島に調査に行った。そこは、海面上昇の懸念や海岸侵食の問題などがあり、将来、人々の暮らしを脅かすことが心配されている。首相に「今、ツバルはどういう支援が一番必要か」と聞くと、「国民一人ひとりにライフベストを与えたい。できれば1家族に一つ“いかだ”も。」との答えが。そうすれば、大きな嵐が来たときに、何日か浮かんで生き延びられるかもしれない…。ツバルとは全く関係が

ない日本やアメリカなどの先進国が温暖化の原因を作り、ツバルなどの地域で暮らす人々の生活に影響を与えてしまうことが今、世界で起きている。私たちの日々の暮らしはローカルな問題だが、遠く離れた人々の暮らしに影響を与えている。実は、宇都宮や日本だけではなく、グローバルに地球的につながって影響を及ぼすという時代に私たちは生きている。



ホッキョクグマの住んでいるところも、どんどん氷が溶けてきている

● 「もったいない」という言葉がすべてのスタート

環境問題は、問題が起きてから「どうしよう」を繰り返してきたが、それはもうやめなければいけない。問題が起きないように、もう少し知恵を働かせる必要がある。そのためには、「もったいない」という言葉がすべてのスタート。「もったいない」と思うかどうかで、地球の将来に影響を与えるかもしれない。

● 環境問題の本当の意味を伝えてほしい

「もったいない」を言葉だけではなく、ただそれを話し合うだけではなく、ただ行動に移すだけではなく、一緒にやってくれる人に皆様が次の方に伝え、その方も行動へ巻き込んでいき、広げていく。そうすることで、今の地球の私たちがしっかりと受け止めなければいけないこの問題が、一人ひとりの真から発生した力強いメッセージとして、本当の意味で伝わっていく。

パネルディスカッション

テーマ：もったいない運動と環境そして平和

●パネリスト

幸田チャーミン氏

福井 昌平氏（平城遷都1300年記念事業協会チーフプロデューサー）

佐藤 泰文氏

（キヤノン（株）グローバル環境推進本部環境統括・技術センター所長）

佐藤 栄一（宇都宮市長）

●コーディネーター

真田 和義氏（毎日新聞社MOTTAINAIキャンペーン事務局長）

（以下敬称略）



左から幸田氏、福井氏、佐藤（泰）氏、佐藤（栄）

福井：地球的な課題を解決するための国際博覧会に挑戦

●自然の地形を利用した会場づくり、そしてリデュース・リユース・リサイクルできる構造



福井氏

愛知万博をプロデュースする際、地球的な課題を解決するための知恵を持ち寄ろうと決意。公園や自然遊水地、貯水池農業用水などの自然の地形を利用した会場をつくり、そしてそれをまた新しい公園に造り変えていくことに挑戦した。また、会場から出たコンクリートや鉄筋はリサイクル、リユースし、会場の通路などで邪魔になった低木は地域の人たちが持ち帰って育てている。

環境負荷、土木造成や建築の負荷を低減するために、新しい鉄扇構造（コンクリート基礎ではなく、鉄パイプを土の中にねじ込んで作ることで、終わったらそれを抜けばまた元に戻る工法）という建築工法にも挑戦した。国際的にも非常に高い評価を得た。



愛知万博の会場となった東部丘陵

●ボランティアとして3万人の市民が参加

ボランティアセンターには3万人の市民が登録。会場で使われているエコ技術を子どもたちに伝える子どもツアーなど、子どもたちに環境のことを伝えるためのプログラムを自分たちで開発して自分たちで提供するということに挑戦した。

●市民が貯めたポイントを植林へ

イベント通貨「エクスポ・エコマネー」のプロジェクトに挑戦。地元のスーパーでレジ袋を断ったり、会場まで公共交通機関を利用することでポイントを獲得し、そのポイントをエコグッズに交換したり、植林のために寄付することができる。予測を大幅に上回る25%のポイントが植林に変わった。驚くことに、植林に寄付した人の大部分が子どもたちだった。結局、愛・地球博は多様な地球市民がつくる初めての万博となった。

佐藤（泰）：無駄を徹底的になくし、少ない資源で価値あるものを生み出すことが使命

●創造性を育てる「セル生産方式」の導入



佐藤（泰）氏

複数の人間の流れ作業であるベルトコンベアーを使った生産方式を廃止し、一人一つのものを組み立てあげる「セル生産方式」を導入。市場の要求に応じて柔軟に生産でき、人間の創造性を活用できるとともに、無駄なスペースがなくなり、エネルギー消費の削減につながった。



「セル生産方式」
一人完結で約90分の複写機組立作業

●「マテリアルフローコスト会計」の導入で、廃棄物を削減

ものを生産するときには、同時に廃棄物も生まれる。従来は、製品がすべてのコストを背負っており、廃棄物削減が進まなかったが、正の製品と負の製品（廃棄物）の二つの製品を作っていると考え、掛かったコストはそれぞれに按分する「マテリアルフローコスト会計」を導入し、廃棄物の削減を進めた。

●他メーカーとの協働によるリサイクル活動

世界各地に自前のリサイクル工場をもっており、戻ってきた製品をリサイクルしているが、他社の製品が戻ってきたときは、スクラップするしかなかった。そこで、「交換センター」を作り、他社製品と自社製品を交換して、各社でリユースしている。

佐藤(栄)：「平和」につながる「もったいない運動」を展開

●「MOTTAINAI」精神を世界へPR



佐藤(栄)

(社)日本青年会議所国際グループの委員会に所属していた平成8年に、「MOTTAINAI」の精神を全世界へ発信するために世界各地をまわった。その際に、「もったいない」をテーマにして世界の子どもたちに絵日記を書いてもらった。日本やヨーロッパの子どもたちの絵は、節水など生活に密着した絵だったが、アフリカ諸国や紛争地域の子どもたちの絵は、ハートマークや機関銃、紛争等で亡くなった方々の絵だった。

それをみて、「もったいない運動」は資源を大切にすることだけでなく、「平和」につながるものであることに初めて気付いた。



「もったいない風呂敷」を広げる佐藤(栄)

●行政が率先して取り組む「もったいない」

平成16年に市長に就任し、「もったいない」を行政にも取り入れた。環境分野では、市民の皆様が簡単に実践できる「もったいない7項目」を設定したり、家庭版、学校版、事業版環境ISOの認定制度も実施するなど、力を入れて「もったいない運動」を展開。また、世界をまわったときに学んだ「平和」につながるよう、人を大切に、思いやる「おもてなし運動」や未来を担う子どもたちを育てる教育に力を注いでいる。

幸田：文化を持続させるために「もったいない」を



幸田氏

多くの専門家が地球の平均気温が産業革命前と比べ2度以上上がると、生態系が変わってしまい大変なことになると言っている。自然と一体になっている文化はたくさんあり、受け継いできた文化も消えていってしまう。文化を持続させるために、「もったいない」を世界共通の言葉として、真剣に取り組んでいかないといけない。政府間の取組も大事。国連を通じた枠組み作りも大事。しかし、実行されるかどうかは、国民の民意で決まる。私たちが気持ちを一につけばいろいろなことができる。もったいない運動から広げていきたい。

真田：それぞれの立場でできることに取り組んでほしい



真田氏

マータイさんは我々と話すときに、「この地球は子どもたちからの借り物である」、「大人が責任を持って、きちんとこの美しい環境を引き継いでいかなければならない」と言っている。このもったいない精神に基づいてすばらしい地球を守っていくために、私もいろいろな場面で先頭に立って取り組んでいきたいと考えているので、皆さんもそれぞれの立場でできることに取り組んでいただきたい。

事例発表会

【松戸市】

市民と行政が一体となって「もったいない運動」を推進

もったいないの精神を醸成することで次世代を担う子どもたちに「もったいない」精神を引き継ぐとともに、「ひと もの しぜんを大切にす
まちづくり」や行財政改革の推進に寄与することを目的に、05年11月
から「もったいない運動」を推進。06年2月には同市立新松戸南小にマー
タイさんが訪れ、講演や記念植樹を行った。07年2月には、民間企業な
どの協賛団体の有志が「もったいない運動推進市民会議」を発足。行政
と市民が一体となって「もったいない運動」を推進している。



松戸市立新松戸南小でのマータイさんの講演



事例発表会には約500人が参加

【NPO法人「さなぎ達」】(横浜市)

コンビニエンスストアからの余剰食材を「さなぎ達」が経営する食堂で顧客に安価で提供

01年2月にNPO法人さなぎ達を設立。「医・衣・職・食・住」の5本柱を軸にして活動。02年には、「パ
ン券で3食温かい食事を」をコンセプトに「食」を担う「さなぎの食堂」を設立。簡易宿泊所120棟に約
6,500人が生活する「寿町」で、路上生活者や日雇い労働者らに300円
で定食を提供。昨年から、コンビニエンスストア「ローソン」の協力で、
消費期限前の商品や余剰食材を無料提供してもらっている。さなぎ達の安
定的な食材の無料調達、横浜市のG30の推進（ごみを平成22年までに
30%減らそうという活動）、ローソンの食品廃棄物の削減という、「横浜型
“もったいない運動”」を展開している。



さなぎの食堂

【マルシェ(株)】(大阪市)

全770店舗で割り箸を廃止するなど「マイ箸持参キャンペーン」を実施

05年7月に割り箸廃止を宣言。06年2月に全店約770店舗で割り箸を
廃止して「マイ箸持参キャンペーン」を実施し、年間約1,500万膳の割り
箸削減に成功した。国内では年間約250億膳が消費されており、1人当た
りの年間消費数が約200膳。これが世界の森林率を下げ、水資源を失わせ
る要因になると訴える。全国から割り箸をなくすために、もう一つ大切な
こと＝「いただきます」をシンボルにした命への感謝の気持ちに気付いて
いただくために、「愛のマイ箸1億人運動」を展開している。



森林の持つ大切な働きを説明するマルシェ(株)

【栃木県立宇都宮工業高等学校】

平成18年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰において「内閣総理大臣賞」を受賞

02年2月、全国の公立高校で初の「ISO14001」認証取得。ごみ
の5種類（可燃物、紙資源、不燃物、ペットボトル、プラスチック資源）
分別や手作り弁当の持参を呼び掛け、6年間でごみ排出量を6割近く減ら
した。生徒で構成する「環境委員会」は、ごみ排出量の定期的な計測など
を行う。現在は生徒の93%が弁当を持参。「一人は一校代表す」の教えを胸
に秘め、グリーン・エンジニアを目指す。



校内でのごみ削減の取組を寸劇で表現する生徒たち

「第1回もったいない全国大会」大会宣言

今、地球が泣いています。
豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
ヒマラヤなどでの氷河の後退
砂漠化の進行
動植物絶滅の危機など
温暖化が進んでいます。
化石燃料の大量消費や森林破壊など
私たち人間の活動が地球を傷つけているのです。



大会宣言文を読み上げる宇都宮市立東小学校6年生のみなさん

今、平和が脅かされています。
繰り返される戦争やテロ、凶悪犯罪
今このときも、世界のどこかで多くの尊い命が失われています。
人を思いやるところが失われているのです。

未来にこの美しい地球を残していくために・・・
そして、私たちが平和に生きていくために・・・

私たちは、もったいないの精神のもと
人やものを大切にします。
ひとりの地球市民としてかけがえのない地球を守ります。

そして、私たち日本人が古くから持っている
この素晴らしい「MOTTAINAI（もったいない）」を
この大会から全国へ、世界へ広げていくことを
今ここに宣言します。

平成 19 年 8 月 28 日

第 1 回もったいない全国大会

もったいない全国大会実行委員会 事務局

〒320-8540

栃木県宇都宮市旭 1 丁目 1 番 5 号

宇都宮市環境部環境政策課内

TEL 028-632-2417 FAX 028-632-3316

E-mail mottainai@city.utsunomiya.tochigi.jp

発行 2007年（平成19年）12月